



公式サイト

柳川市民文化会館

【開館時間】午前9時～午後10時、月曜休館
【問い合わせ】☎73・7777

水都やながわ information



新 市史抄片

【問】市生涯学習課市史編さん係 ☎72・1275

No.195

北島三郎の弟子が結成したユニット「北島兄弟」が柳川で初公演

2月17日
販売開始



北島兄弟の北山たけし（写真右）と大江裕

北山たけし&大江裕 北島兄弟コンサート

市出身の演歌歌手北山たけしがデビュー15周年の平成30年に大江裕と結成したユニット「北島兄弟」が柳川へやってきます。デビュー曲「ブラザー」を発表後、日本レコード大賞で企画賞を受賞し、NHK紅白歌合戦にも出場した2人。その後、全国各地でコンサートを開催したり、「北島兄弟」の名付け親であり、2人の師匠でもある北島三郎とともにCMに出演したりと大活躍中です。心に響く力強い2人の歌声を白秋ホールで堪能してみませんか。

- 日時 5月5日（日・祝）午後3時開演（開場は45分前）
- 入場料（全席指定）4000円。未就学児は入場不可
- 無料託児（未就学児）4月19日（金）までに要予約
- 発売日 2月17日（土）午前10時から市民文化会館で販売開始（1人4枚まで）

バイオリンとピアノによる変幻自在のステージ TSUKEMEN コンサート

バイオリン2本とピアノからなる音楽グループ「TSUKEMEN」。リリースしたCDが次々とクラシック・チャート1位を獲得している彼らが、柳川で演奏を披露します。クラシックやポップスなどいろいろなジャンルの音楽が、独自のアレンジで唯一無二の曲に生まれ変わる変幻自在のステージを楽しみませんか。チケットは市民文化会館で販売中です。



- 日時 4月27日（土）午後2時開演（開場は45分前）
- 入場料 全席指定6000円。未就学児は入場不可
- 無料託児 4月12日（金）までに要予約

suito 定例イベント

詳しくは、同館の公式サイトで確認できます。

第3木曜 リトミックひろば

- 日時・料金・定員 2月15日（木）①午前10時～②午前11時～（各40分）、1組500円、各回先着10組
- 講師 CHIAKI

第3金曜 ロビーコンサート

- 日時・料金・出演 2月16日（金）午後7時～（約60分）、無料、江上佐和子

女子教育に尽力した西田敬止

柳川古文書館 白石直樹



西田敬止著「益軒楽観」



敬止の追悼記事（「柳河新報」昭和4年11月23日号）

西田敬止は、万延元（1860）年に山門郡大塚村（現みやま市瀬高町大草）で柳河藩士西田敬勝の次男として生まれました。敬止は伝習小学から柳河師範学校へ進学し、卒業後は柳河師範付属小学校や三池銀水中学校などで教壇に立ちました。明治17（1884）年には中学伝習館（赴任当時は柳河中学校）の教員となりますが、一念発起して帝国大学文科大学（現東京大学文学部）古典講習課に入学。卒業後は帝国大学教授の物集高見のもとで「日本大辞林」という国語辞典の編さんに携わりました。

その後、明治22年に東京女学館に教員として招かれます。東京女学館は、欧米女性と同等の教育及び家庭の訓練を日本女性に受けさせることを目的に、明治21年に開校したばかりでした。東京女学館には当時イギリス人の女性教師しかいませんでしたが、敬止は初めての日本人男性教師として迎えられたのです。その後、東京女学館に務めながら正則中学校（現正則高校）で国語教師や幹事を務めました。明治32年には東京女学館で幹事となり、女子教育のかたわら学校運営にも携わり、夫人とともに校舎内に住居するような状態でした。このような多忙な中、敬止は「益軒十訓」（明治26年）や

「応用日本文典」（明治27年）、「益軒楽観」（明治41年）、「女子消息文範」など倫理や女子教育、国語学の本を多く執筆。この他、女性雑誌にも数多くの論稿を寄せています。

敬止は明治30年代から柳河学友会の世話役を務め、昭和3（1928）年1月にはその会長に就任しています。柳河学友会は旧柳河藩出身の先輩と上京学生たちの親睦と情報交換を目的に、明治18年に設立された組織。敬止は柳河出身者を自宅に招くなどとても面倒見の良い人物でした。その面倒見の良さから、良縁に恵まれて結婚する男女も多くいて、「柳河新報」では敬止を縁結びの神様の出雲大社になぞらえて「今出雲の神」と記しています。

大正12年の関東大震災によって虎の門にあった東京女学館の校舎が全焼すると、敬止は渋谷羽沢（現渋谷区広尾2～4丁目）に新校舎を建設すべく奔走します。そして、昭和3年に新校舎落成を成し遂げ、翌年には38年ぶりの帰郷を果たしましたが、同年11月16日、69歳の時に敬止は東京でその生涯に幕を閉じました。敬止は東京女学館の教育と運営にとって代えがたい存在であるとともに、郷里から上京した学生たちにとって心強い相談相手でもあったのです。

※表記は広報紙のルールで統一しています。